



A study of physical contact in parent-infant relationships and its impact on cultivating a sense of security  
(親子の身体接触と安心感醸成についての研究)



東邦大学医学部解剖学講座微細形態学分野

吉田 さちね

(第13回 入澤彩記念女性生理学者奨励賞  
(入澤彩賞・若手枠))

この度は入澤彩記念女性生理学者奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ学会関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

私はヒト乳幼児と仔マウスを対象に、親子の触れ合いを定量解析し、子どもの安心感醸成メカニズムの解明を目指しています。私たちヒトも含め、哺乳類はその名の通り、哺乳によって次世代を育てます。そのため哺乳類の子が生き延びるには、親、あるいは主体的に養育を担う個体との物理的な接触が欠かせません。こうした触れ合いは子の健康な心身発達に重要とされますが、子への即時的な影響や神経基盤の多くは未解明です。今回、私たちがこれまで行った2つの「抱っこ」の研究について賞を頂きました。1つは抱いて歩くと乳児が泣き止む機構の一端を解明した研究です。親に運ばれる時に子がおとなしくなる反応は輸送反応とよばれ、ヒト乳児だけでなく、イヌやネコ、ネズミなど様々な幼若個体で見られます。解析の結果、ヒト乳児も仔マウスも輸送反応中は発声量、運動量、心拍数が低下し、副交感神経が活性化したりリラックス状態となることを見出しました。自閉スペクトラム症など発達障害と診断された児の中には、「乳幼児期に抱っこしても泣き止まなかった」等の特徴的な反応を示す場合があります。研究を進め、発達理解への貢献を目指します。2つ目は、非言語コミュニケーションとして抱きしめる「ハグ」の研究です。体性感覚のうち、特に皮

下の筋などで受容される非侵害的な圧刺激の伝達機構はまだよくわかっていません。心電計と柔らかい圧センサを使い、父親、母親そして育児経験豊富な初対面の女性がハグした時の乳児の反応を調べました。その結果、生後4か月以上の乳児では初対面の女性にハグされた時よりも、両親にハグされた時の方が心拍間隔が長くなり、リラックスすることが分かりました。解析には泣いている乳児は含まれていません。つまり、一見おとなしくハグされていても実は生理反応は大きく異なっているといます。現在は、臨床発達心理士/保育士として地域子ども家庭支援センターともかわりながら研究を続けています。

職場やライフイベントが変化する中で研究ができたのも、ひとえに所属長の先生方、共同研究者の方々、同僚の皆様のご指導とご支援のおかげです。生理学会大会中の託児にも何度も助けていただきました。心より感謝申し上げます。本受賞を励みに、研究の発展と次世代研究者の支援に邁進したく存じます。今後とも宜しく申し上げます。

略歴

- 2008年 筑波大院・人間総合科学 博士課程修了
- 2008年 理化学研究所 脳科学総合研究センター 研究員
- 2014年 東京大学 生産技術研究所 研究員

2014年 JST さきがけ研究者  
2014年 東邦大学 医学部 助教

2020年 東邦大学 医学部 講師